

# かたの民報

## 議会版

2017年10月29日  
NO. 1673

【発行】  
日本共産党  
日市会議員団

ご相談は市役所  
議員団控室へ  
私部1-1-1  
☎892-0121  
(内線301)



中上 さち子  
倉治 6-17-13  
☎893-6785



さらがい ふみ  
星田 7-44-21  
☎894-2835



藤田 まり  
私部西 2-16-13-310  
☎397-3027

### 9月議会 「交野市学校規模適正化基本方針」について質問

交野市の「学校規模適正化基本方針」では小学校は12学級、中学校は9学級以上を適正規模としています。日本共産党は、適正規模の根拠について、また、適正化で統廃合が行われた場合の地域への影響について質しました。

学級数が11以下の長宝寺小学校は「学校規模適正化方針」に該当しないため、市は、統廃合を含めた学校配置について、今後検討するとしています。

「小学校は12学級以上が好ましい」とする根拠はない

【問】小学校は12学級以上が適正とする根拠について訊ねる。  
また、学級や学校の規模によって教育効果に差が生じるというデータはあるのか。

【答】一定規模の児童数で切磋琢磨し、資質や能力を伸ばすことが大切である。また、人間関係の改善には、固定環境よりも複数学級が好ましい。

しかし、教育委員会が「好ましい」とする規模が適正化であるかを示す教育的な根拠やデータはありません。

また、学校規模についての、PTA協議会・青少年指導員会など学校関係団体との意見交換では、「さらに少人数を進めて単学級を解消すべき」とか、「小規模のデメリットの解決策を知りたい」など、むしろ小規模校を肯定する意見が多く出されました。

逆に、統廃合によって長距離となる通学路の安全面について、不安の声が出されました。



文科省手引きでは、小規模校のデメリット緩和策までも記載

【問】文科省「学校適正配置に関する手引き」では、小規模校のメリットについてどのように記載されているのか。

【答】小規模校のメリットを最大化することや、デメリットを最小化するための緩和・方策等を記載している。

手引きのメリットには、「きめ細かい指導がしやすい」「意見や感想を発表する機会が多い」「リーダーを務める機会が多い」等を記載。また、小規模校経験の先生からは、「強い絆で刺激し励まし合える」「競争力や集団生活において問題はない」等が報告されています。

デメリットの緩和策として、「多様な考えに触れる機会の確保」「教員体制の整備」等、決定的なダメージにつながる記載はありません。

防災・コミュニティに影響、長宝寺小関係者に説明の場を持つべき

【問】長宝寺小学校の関係者への説明会の予定はあるのか。

【答】適正配置を進める中で、関係者等から意見を聞く場は必要であると考えている。

市が検討している適正化の方向は「現状維持」、または「交野小学校との統合」、あるいは「第1中学校を含めた小中一貫校」等です。

文科省は学校の統廃合について、「行政が一方的に進めるものではなく、地域と共にある学校づくりの視点を踏まえたと丁寧な議論が必要」と述べています。

市は今のところ、学校配置が決まった時点で地元説明を考えているようですが、「災害時の避難場所」や「コミュニティの力」など地域のまちづくりに影響することから、子ども、保護者を含む学校関係者、地域住民にまず情報を提供し意見を求めるべきであり、丁寧な議論が必要ではないでしょうか。

財政優先ではなく、子育て世代を呼び込むまちづくりの展開を

「子どもが減っている」「財政確保」等の理由で、学校を手放した地域では、子育て世代がいなくなる事態が全国で起きています。

市が本気で、人口減少の食い止めを考えているのであれば、交野で子育てしたいと思える「学校給食の無料化」や「医療費助成の拡充」などの応援策を展開すべきです。

求められているのは、57億円の基金を活用した子育て世代を呼び込むまちづくりではないでしょうか。

